

平成22年度第2回（通算第42回）ソフィア発見講座(報告)

実施日 平成22年11月10日（水）

会場 磐周教育研究所 大会議室

講話 18:00～19:00

テーマ 「学校にいる行政職員として」～事務室から学びの支援室へ～

講師 袋井市立袋井中学校 横山 泉 統括事務主幹

講話

○秋葉ダム近くの龍山第一小学校 事務職員としての第一歩（昭和54年）

（司会をする寺田勝美周南中教頭）



事務職員って何だろう・・・よく分からずに就職した。学校関係には興味があった。80数名の児童。全員の顔を覚えた。昼には子どもたちと相撲をとっていた。遠足も一緒に行った。

1年生担任は女性職員が多く、男性が1人いた方がいいということで。「事務職員って何だろう」と自問していた。・・・縁の下の力持ちと言われ

（挨拶と講師紹介は小林節子浅羽南小校長）

ていた。この言葉に少し怒りを覚えた。学校の職員全員が支えているのではないか。

○磐田に赴任した。→西部教育事務所に勤務。学校文化との違いは、名刺を持ったこと。出し方もらい方を教わった。名刺は大事なものと分かった。行政とは「一円と一文字の大切さ。人と人とのネットワークをつくること」と教わった。予算を確保して施策を的確に遂行すること。名刺を交換すると、それで



知り合ったことになり、次につながる。

○義務教育費国庫負担法の取り扱い

大きな提言がされた。事務職員をはずそう。学校の基幹職員ではなくなるという危機感をもった。市町村の財政状況によって事務職員が減らされるということになってしまう。どちらがよいのか。

○事務職員の仕事の位置づけ（昭和59年頃）

教員・・・政治・行政から離れるべきという考え方だった

事務職員・・・行政寄り。それを主張することで自らの存在を主張してきた。

○標準的職務の明確化

(講話をする横山泉袋井中統括事務主幹)



・標準的職務内容の通知（平成5年）
全国にさきがけて静岡が出してくれた。「学校経営に参画をする」という言葉が入ってきた。大きな意味をもっている。

・処務規定等の制定（平成10年）
専決権・権限等役割が明確に。起案制度の導入。保護者の視点からも文書を見ることができる。意識が変わる。それらに関わっていける。

・「学校的意思決定に関わる車の両輪」と表現されるようになる。

教育組織と運営組織に分けられるようになってきた。ゼネラルスタッフとして事務職員が関わっていくようになる。

○単身赴任 春野南中学校 平成16年度廃校

新設校準備会を立ち上げた。廃校にあたって事務職員として必要と思われることを提言した。新設校の規則をつくった。

・平成17年 春野中学校開校。事務室を出入り口に近いところに作ってもらった。

○全国への関わり

・大学での講義（平成13年） 藤原先生からの依頼 「学校財務」で学生に話をした。90分話すのは、とても大変。講義を聴いて事務職員になった方もいる。人との出会いが仕事をつくる。

・平成18年 文科省委託 「新しい時代の財務事務」テキスト作成

・平成19年 文科省職員が袋井中学校へ実地研修に来た。教員免許をとってきた。

・文科省学校評価委員（文科省非常勤職員という立場）

学校へ赴き、評価をする。

・全国公立小中学校事務職員研究会

鳩山首相主催の「桜を見る会」に出席。

○事務職員の研究の経過

教員の補助員としての位置づけ→職務内容の明確化→国庫負担法の問題・存在意義をア



ピール→学校経営に参画するという意義づけ・公務員としてのポリシー（未来や夢を語ること）子どもの育ちを支援するという考え方、子どもの学びを応援するという考え方になってきた。

「学校にいる意味は？」「子どもたちへ何を？」「事務職員の存在意義は？」

我々の実践がこういう考えを導き出してきたとも考えている。

○中央教育等審議会 喫緊の課題

○実践の蓄積と制度整備を

1 事務職員制度・・・ 事務長制

2 学校事務規定（事務処理体制の整備）

3 学校運営組織（共同実施→地区学校事務室）

4 研修制度

5 評価制度

6 教職員評価

○学校教育目標の実現に向かって「直接的教育活動」＋「間接的教育活動」

学校事務全体として何ができるか。マネジメント機能。間接的教育活動として何ができるか。

【子どもたちの豊かな育ちのため、事務職員は意欲をもってがんばります】というコメントでいつも講演会を終わることにしている。みんなで一緒になって学校のためにがんばろうという思いをこめている。

財務という側からも、ぜひ学校を考えていただきたい。

（御礼の言葉、伊藤義樹向陽中校長）



今回のソフィア発見講座は前回にも増して参加者が多く、73名を数えました。様々な経験に裏打ちされた横山統括事務主幹の講話は、「事務職とは何か」という問いかけを超えて、学校経営や運営はどうあるべきかという分野まで踏み込んだものだと感じました。

また、事務職員の方が、事務職員はもとより、校長、教頭、教諭に向けてまとまったお話しをする機会は今まであまりなかったようなので、その意味でも貴重な場になったと思います。

本年度も皆様方のおかげで2回とも盛況の内に終わることができました。講師の方のもとより、御支援いただいた方々に心から御礼を申し上げます。

次年度も魅力あるソフィア発見講座にしたいと考えますので御期待ください。